

## 第8節 特筆すべき動物

### 第1項 オオタカ・ハイタカ

#### 1-1 調査概要

評価書における現況調査において確認した特筆すべき陸上動物のオオタカ、ハイタカについて、最終処分場計画地及びその周辺における生息状況を把握するため調査を実施した。

#### 1-1-1 調査日時及び調査内容

調査は表8-1に示したとおり、平成16年4月及び平成17年1月から3月にかけて実施した。

表8-1 調査日時及び調査内容

調査回	調査日	調査時間	調査内容
第1回	平成16年4月13日	6:30～13:00	生息確認調査
第2回	平成17年1月20日	6:30～13:00	
第3回	平成17年2月17日	6:30～13:00	
第4回	平成17年3月18日	6:30～13:00	

#### 1-1-2 調査地点

調査地点は、図8-1に示したとおり、施設と最終処分場計画地を広く見渡せる2地点で実施した。

#### 1-1-3 調査方法

調査は定点観察により行い、オオタカ及びハイタカの飛翔が確認された場合は行動を追跡し、把握することとした。

また、調査にあたっては、8倍程度の双眼鏡と、25～50倍程度のフィールドスコープを用い、さらに、オオタカ等が確認された場合は、無線機を用いて、調査員間で連絡を取り合い、行動をより詳細に把握することとした。

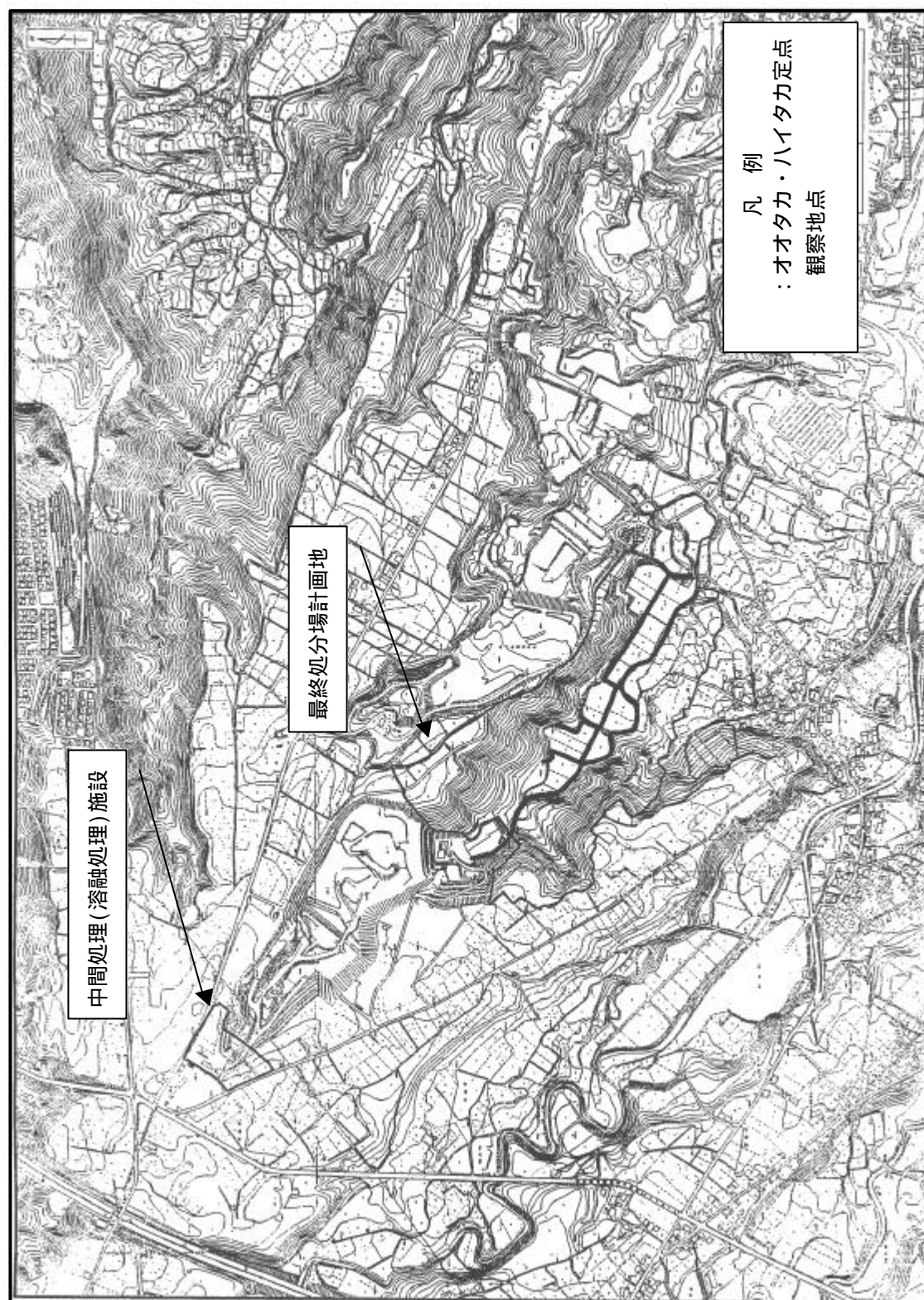


図 8 - 1 オオタカ・ハイタカ調査地点

## 1 - 2 調査結果

調査の結果、表 8 - 2 に示したとおりオオタカを 2 例、ハイタカを 1 例確認したが、確認状況からは巣材運びや、餌運び、ディスプレイ飛翔など、繁殖を示唆する行動は確認できなかった。

オオタカ、ハイタカの確認状況は図 8 - 2 に示したとおりである。

表 8 - 2 オオタカ・ハイタカ確認状況

	種名	確認年月日	成幼・雌雄	確認時間	確認状況
1	オオタカ	平成 17 年 1 月 20 日	幼鳥・	7:49 ~ 7:50	最終処分場計画地東側上空を北から南へ飛翔する個体を確認。カラス 4 羽に追尾されながら飛去した。
2			不明・不明	11:16 ~ 11:17	最終処分場計画地東側上空を西から東へ飛翔する個体を確認。カラス 5 羽に追尾されながら飛去した。
3	ハイタカ	平成 17 年 3 月 18 日	成鳥・不明	10:55 ~ 10:59	最終処分場計画地西側上空を巡回している個体を確認。しばらく巡回上昇した後、北方向へ飛去した。

注：表中 図 8 - 2 に対応

## 1 - 3 まとめ

調査の結果、1 月調査時にオオタカを 2 例、3 月調査時にハイタカを 1 例確認した。確認状況からは巣材運びや、ディスプレイ飛翔などの繁殖を示唆する行動は確認できなかった。

最終処分場計画地の北側には四日市市南部埋立処分場があり、ここを餌場としているハシブトガラス及びハシボソガラスが本地域周辺を生息環境として利用している状況である。

さらに、最終処分場計画地一帯の森林をこれらカラスが<sup>ねぐら</sup>として多数利用しており、カラス同士のなわばり争いや、他の鳥類（トビ等）への攻撃などが頻繁に行われている状況であった。

このことから、当該地域はオオタカ、ハイタカ等の猛禽類の繁殖には適さない環境であると考えられる。

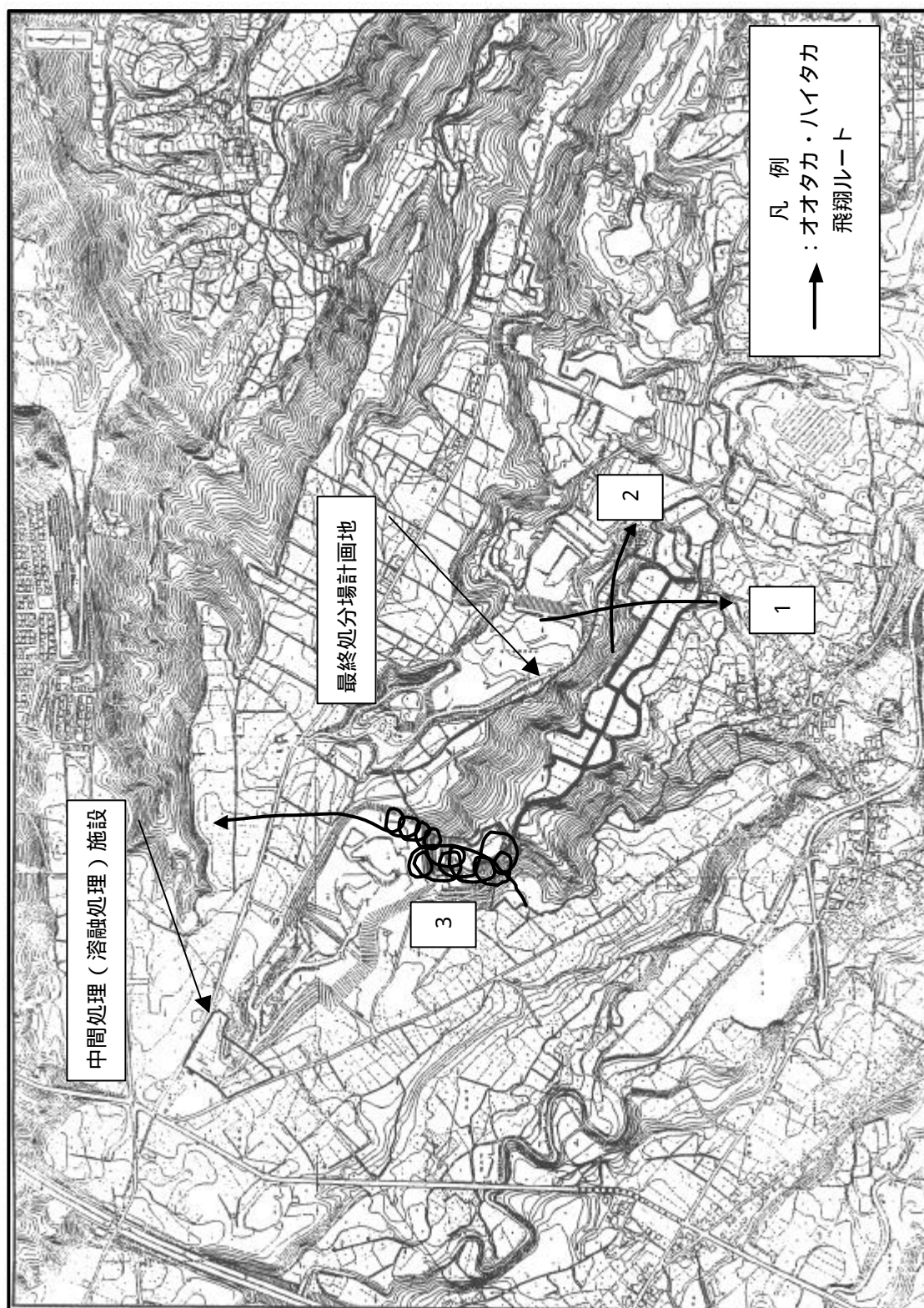


図 8 - 2 オオタカ・ハイタカ確認状況

## 第2項 チュウサギ・サンショウクイ・タゲリ

### 2 - 1 調査概要

評価書における現況調査において確認した特筆すべき陸上動物のチュウサギ、タゲリ、サンショウクイについて、最終処分場計画地及びその周辺における生息状況を把握するため調査を実施した。

#### 2 - 1 - 1 調査年月日及び調査内容

調査は表8 - 3に示したとおり、夏鳥であるチュウサギ、サンショウクイを6月に、冬鳥であるタゲリを12月に実施した。

表8 - 3 調査年月日及び調査内容

調査対象種	調査年月日	調査内容
チュウサギ	平成16年 6月 2日	任意観察調査
サンショウクイ	平成16年 6月 2日	
タゲリ	平成16年12月15日	

#### 2 - 1 - 2 調査範囲

調査範囲は、図8 - 3に示したとおり、最終処分場計画地周辺で実施した。

#### 2 - 1 - 3 調査方法

調査は調査範囲内を任意に踏査する任意観察により実施した。

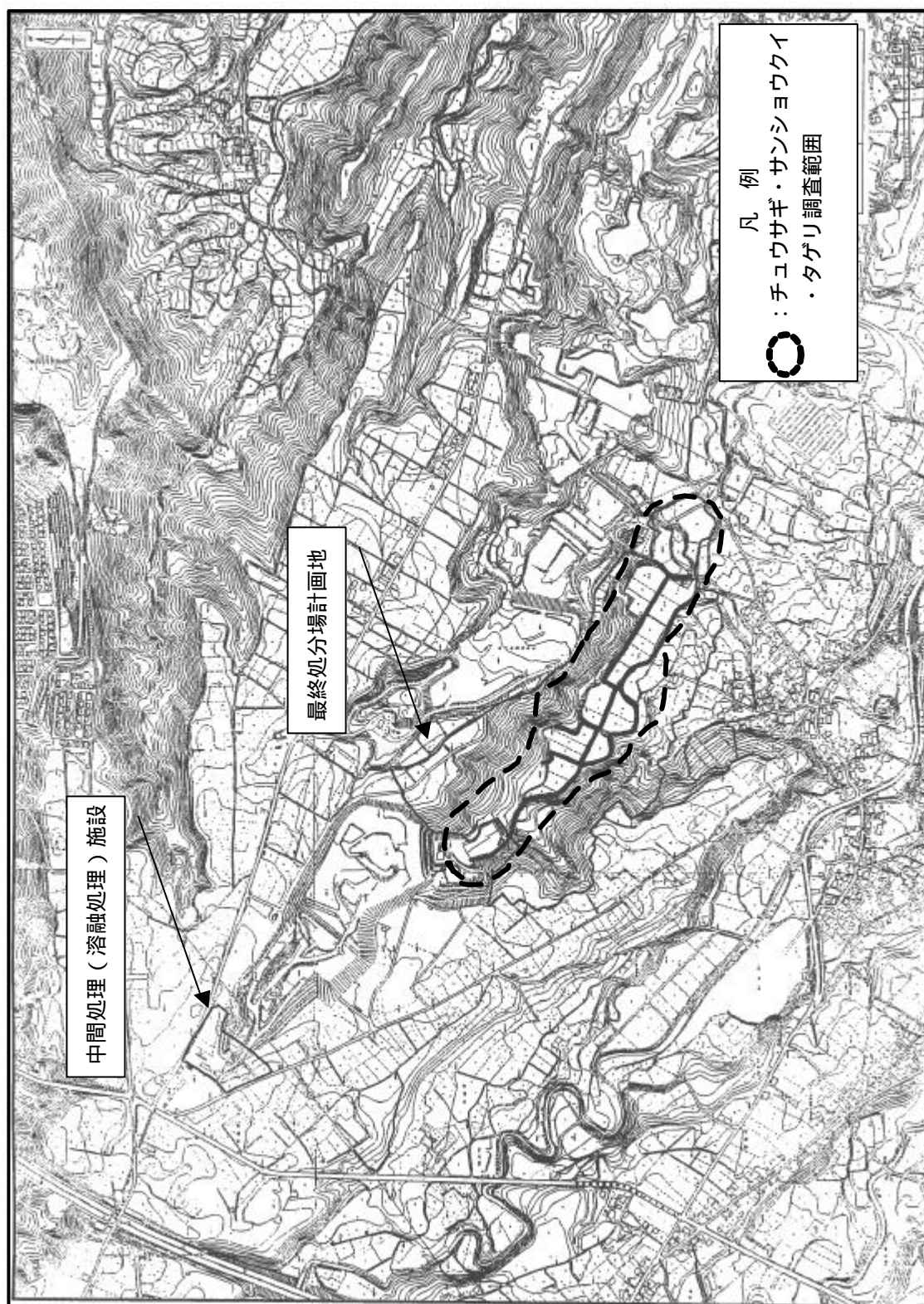


図 8 - 3 チュウウサギ・サンショウクイ・タゲリ調査範囲



## 2 - 2 調査結果

調査の結果、調査対象種 3 種のいずれも確認できなかった。

## 2 - 3 まとめ

本調査の結果、対象とした 3 種（チュウサギ、タゲリ、サンショウクイ）のいずれも確認できなかった。

これら 3 種について、今回、生息は確認できなかったが、これらの種を確認した現況調査当時と比べ、周辺の環境は大きく変化していないことから、今後も飛来する可能性はあると思われる。

### 第3項 フクロウ

#### 3 - 1 調査概要

評価書における現況調査において確認した特筆すべき陸上動物のフクロウについて、最終処分場計画地及びその周辺における生息状況を把握するため調査を実施した。

##### 3 - 1 - 1 調査日時及び調査内容

調査は表8 - 4に示したとおり、平成16年4月及び平成17年1月から3月にかけて実施した。

表8 - 4 調査日時及び調査内容

調査回	調査日	調査時間	調査内容
第1回	平成16年4月16日	17:00～21:00	生息確認調査
第2回	平成17年1月27日	17:00～21:00	
第3回	平成17年2月28日	17:00～21:00	
第4回	平成17年3月23日	17:00～21:00	

##### 3 - 1 - 2 調査範囲及び調査方法

調査は、評価書における現況調査で本種の飛翔等を確認した場所を中心に計画地内を広く踏査する任意観察により実施した。

調査範囲は図8 - 4に示したとおりである。



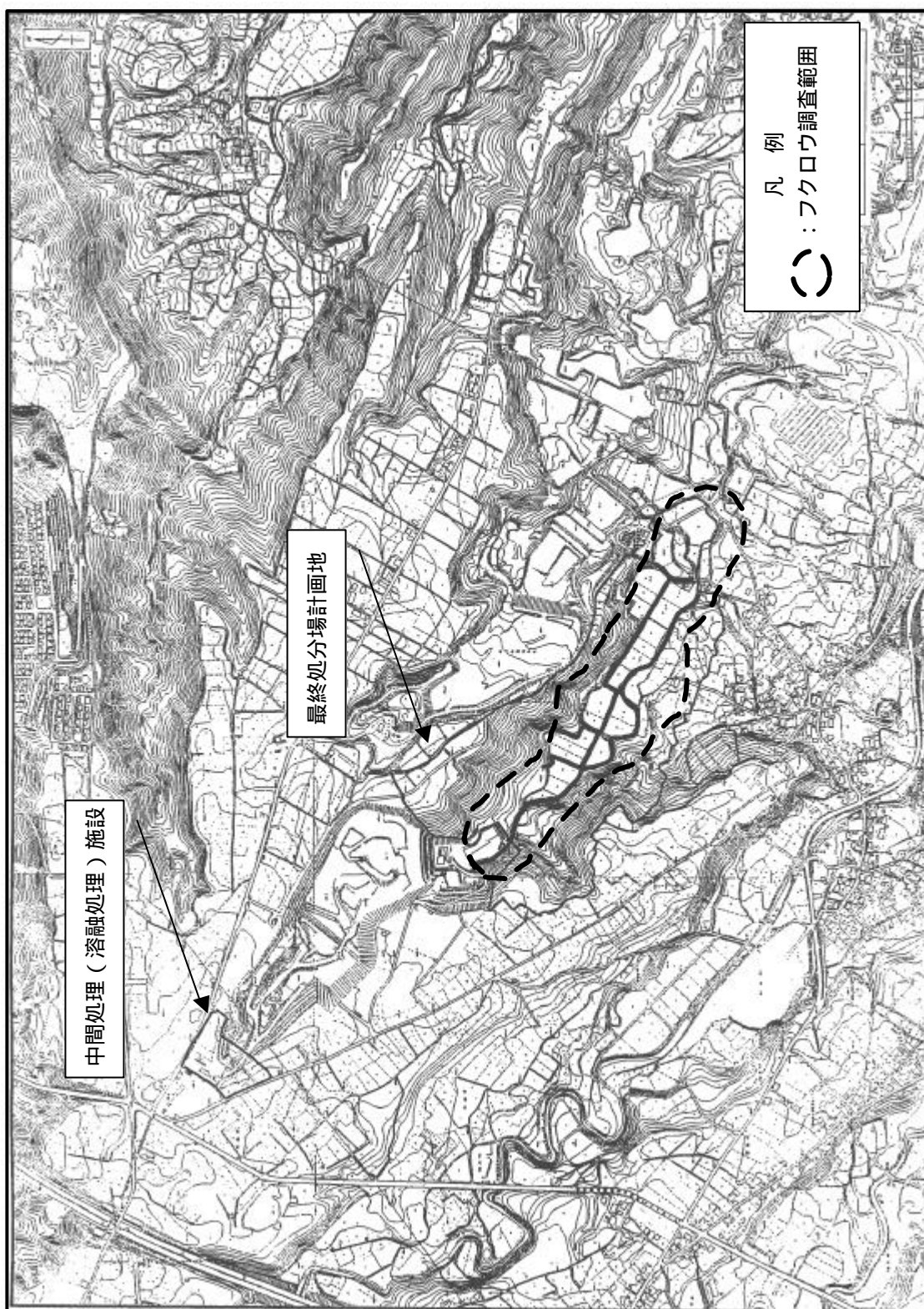


図8 - 4 フクロウ調査範囲

### 3 - 2 調査結果

調査の結果、本種の生息を確認することはできなかった。

### 3 - 3 まとめ

今回、本種を確認することはできなかったが、調査を実施した場所周辺には、四日市市南部埋立処分場があり、ここを餌場としているハシブトガラス及びハシボソガラスが本地域周辺を生息環境として利用しており、猛禽類の進入する余地がないことと、計画地及びその周辺の森林には、本種の繁殖地となる樹洞のあるような大径木はみられないことから、本地域の繁殖地としての利用はないものと思われる。

#### 第4項 ハルゼミ・トゲアリ・ムカシヤンマ

##### 4 - 1 調査概要

評価書における現況調査において確認した特筆すべき陸上動物のハルゼミ、トゲアリ、ムカシヤンマについて、最終処分場計画地及びその周辺における生息状況を把握するため調査を実施した。

##### 4 - 1 - 1 調査年月日及び調査内容

調査年月日及び調査内容は表8 - 5に示したとおりである。

表8 - 5 調査年月日及び調査内容

調査対象種	調査年月日	調査内容
ハルゼミ	平成16年5月14日	生息確認調査
トゲアリ	平成16年5月24日	
ムカシヤンマ	平成16年5月14日	

##### 4 - 1 - 2 調査場所

調査は、評価書の調査で本種を確認した場所を中心に行った。

主な踏査ルートは図8 - 5に示したとおりである。

##### 4 - 1 - 3 調査方法

調査は調査範囲内を任意に踏査する任意観察により行い、対象種の確認に努めた。

なお、ハルゼミについては、本種の鳴き声を録音したテープの再生により共鳴させる方法で生息の確認に努めた。

##### 4 - 2 調査結果

調査の結果、最終処分場計画地北部の1箇所においてハルゼミ（2～3個体）の鳴き声を、また、最終処分場計画地中央付近の2箇所においてムカシヤンマを計5個体確認した。

ハルゼミ、ムカシヤンマの確認地点は図8 - 6に示したとおりである。

なお、トゲアリは確認することはできなかった。

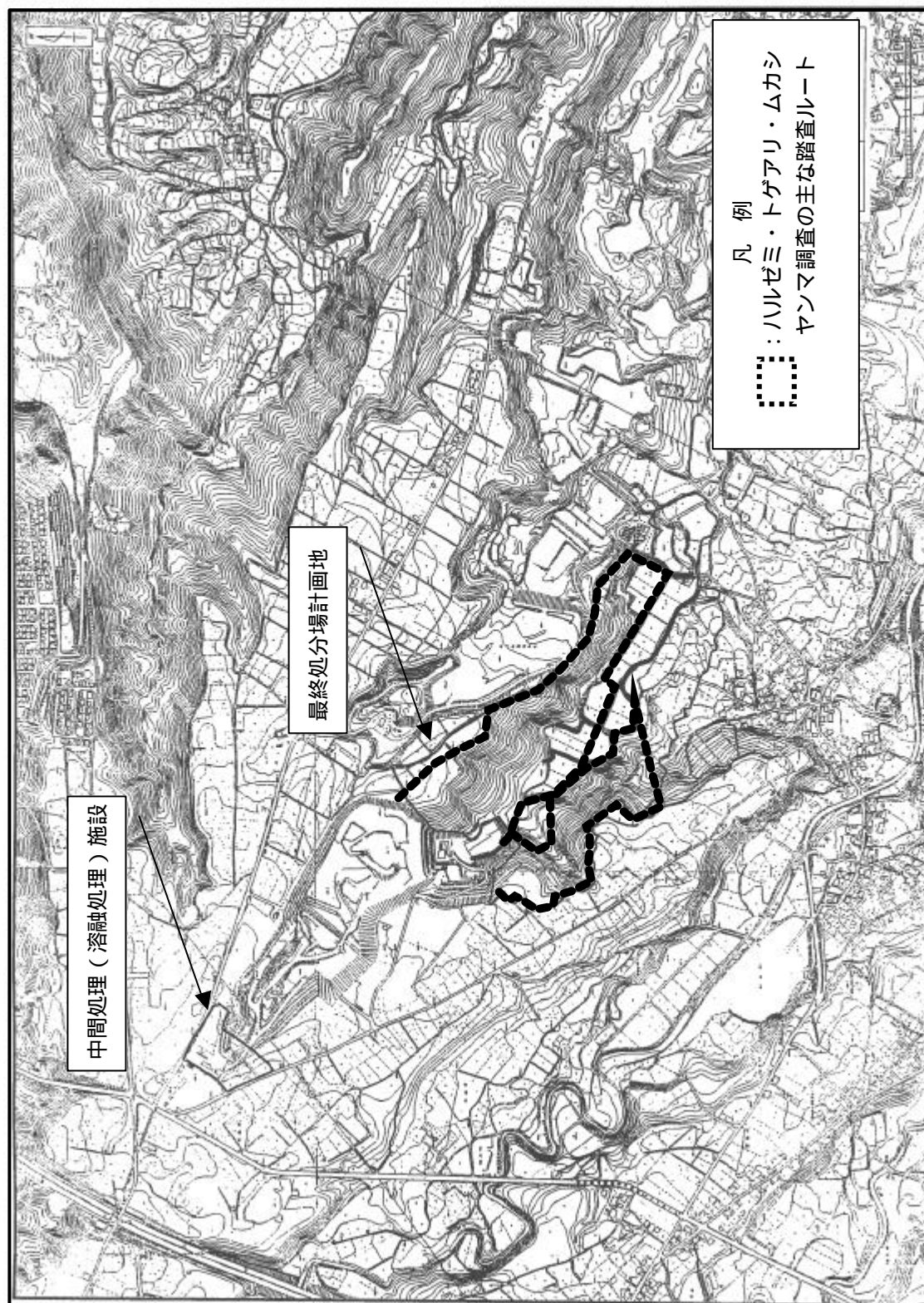


図 8 - 5 ハルゼミ・トゲアリ・ムカシヤンマ調査の主な踏査ルート

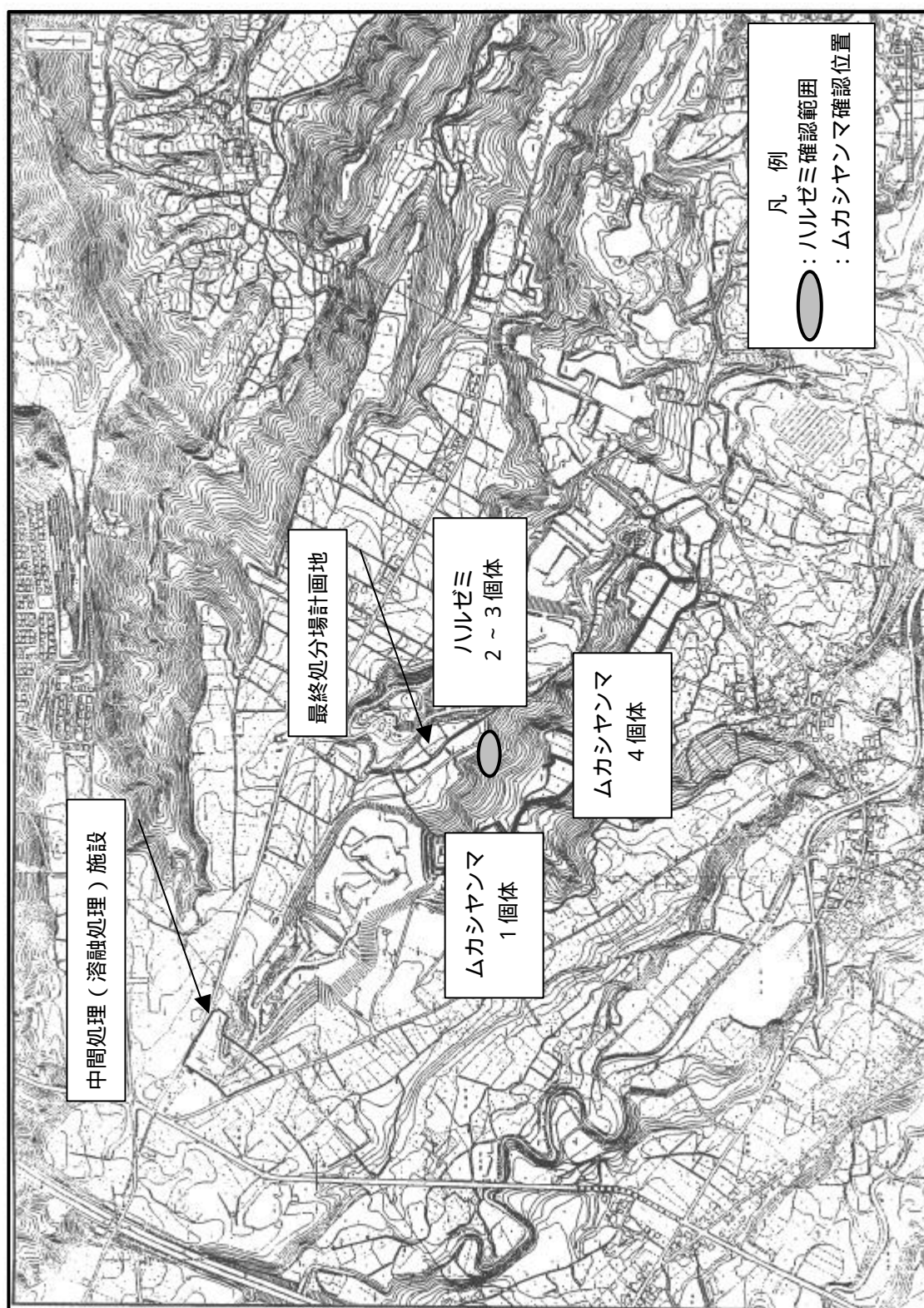


図 8 - 6 ハルゼミ・ムカシヤンマ確認地点

#### 4 - 3 まとめ

今回の調査の結果、調査対象とした３種（ハルゼミ、トゲアリ、ムカシヤンマ）のうち、ハルゼミ、ムカシヤンマの生息を確認した。

現況調査当時と比べると、ハルゼミについては、生息に不可欠なアカマツのほとんどが枯れていることから、生息数が減少しているものと考えられる。

また、トゲアリについては、生息確認地点の環境が大きく変化していないことから、生息の可能性はあると考えられる。

## 第5項 ゲンジボタル

### 5 - 1 調査概要

評価書における現況調査において確認した特筆すべき陸上動物のゲンジボタルについて、最終処分場計画地内を流れる天白川周辺における生息状況を把握するため調査を実施した。

また、ゲンジボタルの幼虫及び幼虫の餌であるカワニナの調査も併せて実施した。

#### 5 - 1 - 1 調査日時及び調査内容

調査日時及び調査内容は表8 - 6に示したとおりである。

表8 - 6 調査日時及び調査内容

調査日	調査時間	調査内容
平成16年6月7日	20:00～21:30	成虫生息確認調査
平成17年2月25日	9:40～15:30	幼虫及びカワニナ調査

#### 5 - 1 - 2 調査ルート

調査は計画地内の天白川沿いを中心に実施した。

成虫、幼虫及びカワニナの調査ルートは図8 - 7に示したとおりである。

#### 5 - 1 - 3 調査方法

成虫調査は計画地内を流れる天白川周辺を夜間踏査し、飛翔する個体を補虫網等で捕獲し確認を行った。

幼虫及びカワニナ調査は、昼間に天白川及び支川の河川内を踏査し、タモ網等を用いて確認を行った。

### 5 - 2 調査結果

成虫調査の結果、600個体以上を確認した。

確認位置は図8 - 8に示したとおりである。

確認状況としては、天白川沿いの最終処分場計画地内中央部付近に集中してみられた。

また、冬季に実施したゲンジボタルの幼虫及びカワニナ調査の結果、天白川の最終処分場計画地中央部付近（成虫確認位置）を中心にゲンジボタルの幼虫12個体を確認した。

カワニナは最終処分場計画地内の中流から下流付近に広くみられた。

ゲンジボタルの幼虫及びカワニナ確認地点は図8 - 9に示したとおりである。



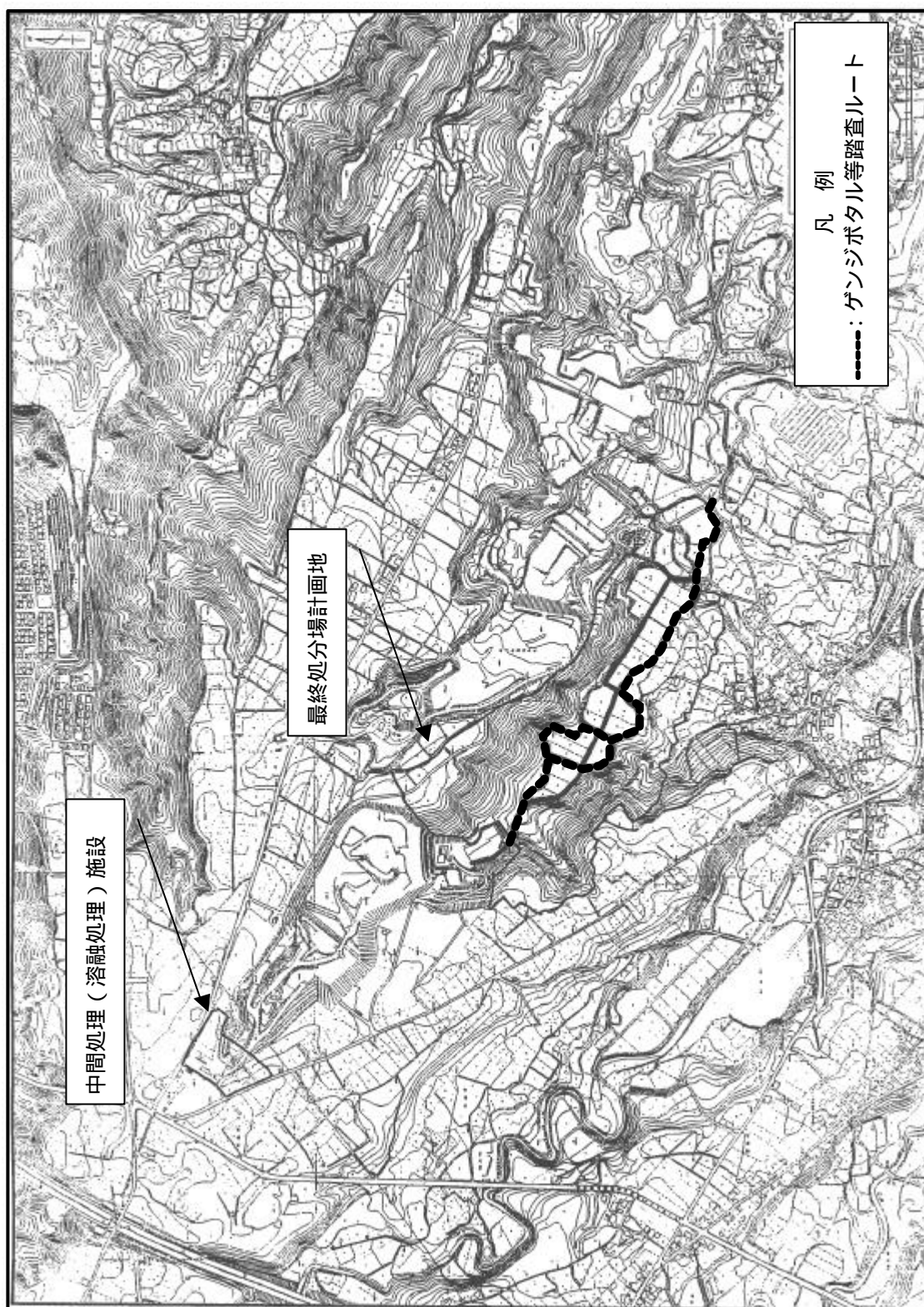


図 8 - 7 ゲンジボタル（成虫・幼虫）・カワニナ調査ルート

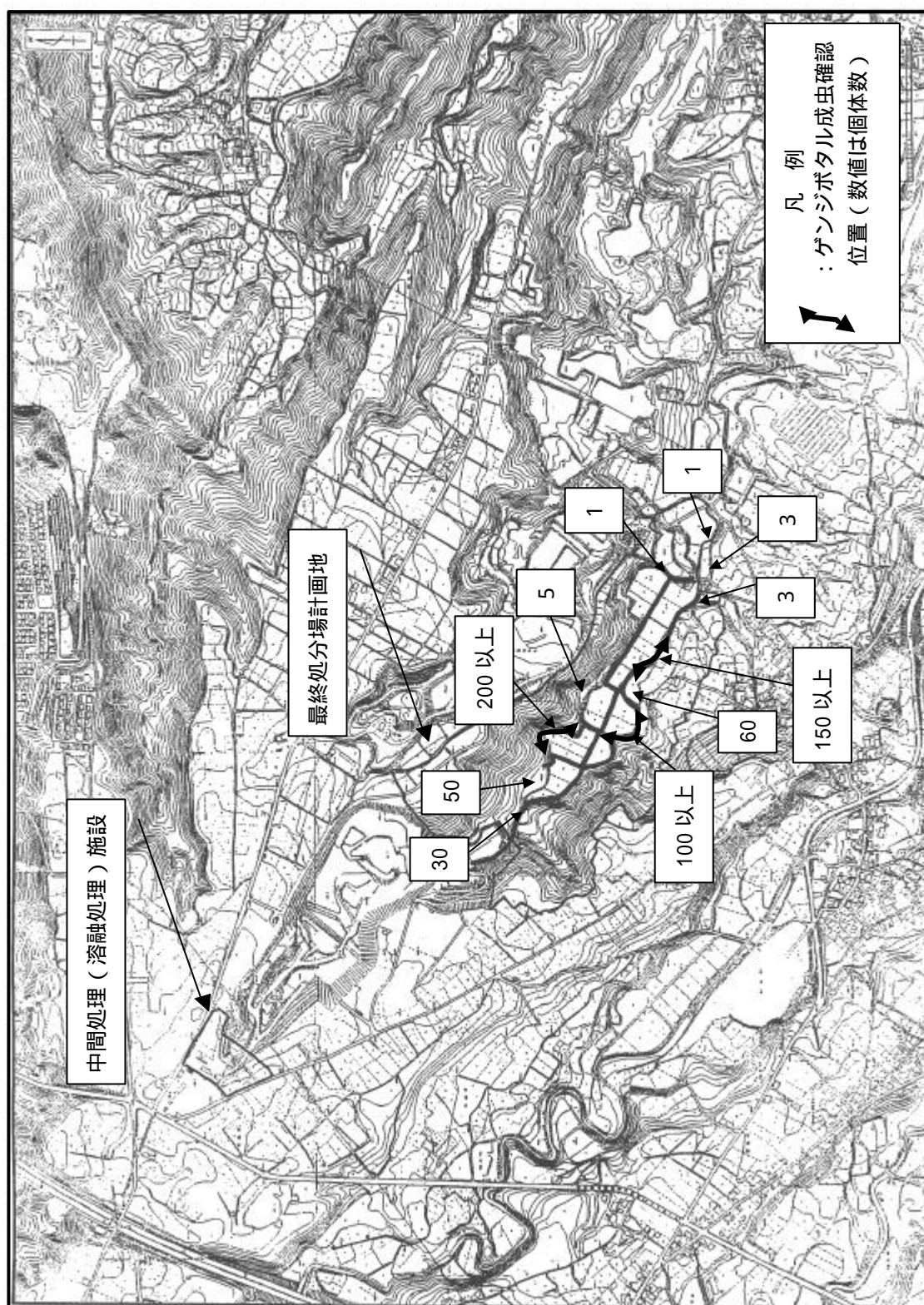


図 8 - 8 ゲンジボタル（成虫）確認場所

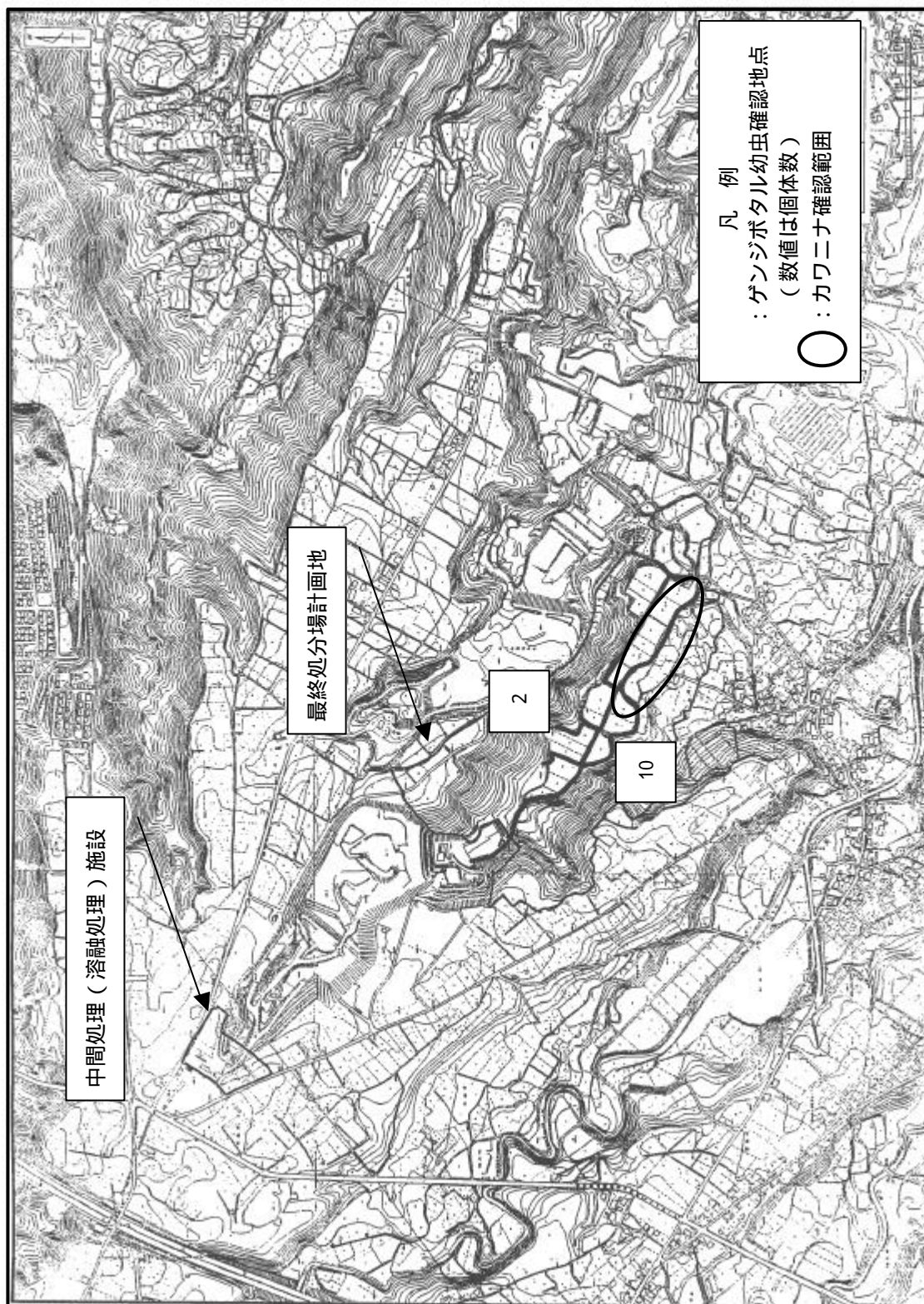


図 8 - 9 ゲンジボタル幼虫・カワナ確認地点

### 5 - 3 まとめ

成虫については、今回の確認数と昨年度の確認数（119 個体）とを比べてみると、今回の確認数（600 個体以上）は多い結果であった。

しかし、幼虫については、計画地内における天白川で実施した調査において、12 個体と成虫の確認数と比較して少ない結果であった。

なお、本種の幼虫の餌であるカワニナについては、計画地内の中流から下流付近で確認したが、上流付近では確認できなかった。